

プログレッシヴ・ロック・フェス 2010

美しき旋律と壮大なるサウンド ~ そしてめくるめく音世界への誘い

プログレッシヴ・ロックは、ロックと、クラシックやジャズ、そして現代音楽までの様々な音楽的要素を融合させただけでなく、作品にテーマを持たせ、トータル・アルバムを完成させた稀に見る音楽ジャンルである。そんなプログレッシヴ・ロックを代表するバンドに、キング・クリムゾン、イエス、EL & P、ピンク・フロイド、ジェネシスという巨星が存在するが、彼らを頂点とする王国はその裾野が広く、実にその誕生から40年を経た今でも広がり続けている。

そのテーマには、寓話的もの、精神的なもの、自然や宇宙、中世の世界を扱ったものと幅広く、サウンドはファンタジーに溢れ、時にアヴァンギャルドに変身する。プログレッシヴ・ロックのもうひとつの特筆すべき点は、音楽を包むジャケットのアートワークと一体化した他に類を見ない音楽ジャンルであることだ。

そのプログレッシヴ・ロック・ファンが世界で最も多いのが我が国日本であり、プログレッシヴ・ロックを愛する日本人によってその市場は長きにわたって維持されてきたと言ってもいいだろう。そんな日本で初めての本格的なプログレッシヴ・ロックの祭典が開催されることとなった。記念すべき第一回の出演は、ブリティッシュ・プログレッシヴ・ロックの一角を築いたジェネシスのギタリスト、スティーヴ・ハケット、アニー・ハズラムの澄んだ歌声とトラッド・テイスト溢れる華麗な旋律が多くのファンに指示されるルネッサンス。そして我が国からは、日本のプログレッシヴ・ロックの最高峰、四人囃子が登場する。めくるめく音世界へようこそ。儂くも荘厳で、どこまでも美しく、そしてスリリングな瞬間へようこそ。

日本で初めてのプログレッシヴ・ロックの祭典「Progressive Rock Fes 2010」へようこそ。

奇跡が起る瞬間の証人になろうではないか。

岩本晃市郎(ストレンジ・デイズ編集長)



スティーヴ・ハケット STEVE HACKETT with FULL ELECTRIC BAND

日本初となる本格的なバンド編成!!
待望のジェネシス・セットを中心に構成!!

クワイエット・ワールドを経て70年にジェネシスに参加したギタリスト。70年代初期から中期のジェネシスの黄金期を支えた一人で、彼の参加以降ジェネシスは『怪奇骨董音楽箱』『フォックストロット』『月影の騎士』『幻惑のブロードウェイ』などロック史に残る名盤を次々と発表。フロントマンのピーター・ダブリエルが抜けた後もジェネシス・サウンドを継承し『トリック・オブ・ザ・テイル』『静寂の嵐』という2枚の傑作アルバムを制作しそれまで以上に高い評価を受けた。また、75年に発表したソロ作『ヴォヤージュ・オブ・アカライト』はジェネシスよりもジェネシスらしいと囁かれた。伸びのあるサウンドと細やかなピッキングが特徴で、繊細かつ雄大なサウンドが出せるギタリストは彼をおいていない。流れるような旋律を奏でるプログレッシヴ・ロック・ギターの一つのスタイルを作ったギタリストとして、多くのミュージシャンから尊敬されている。彼のクラシカルかつスリリングなプレイはまさに唯一無二だ。



ルネッサンス RENAISSANCE

永遠に響き渡る「水晶」のサウンドとハーモニー!!
美しき感動の世界が甦る!!

英国のトラッド・ミュージックの旋律をロックに取り入れ、さらにそれをプログレッシヴなアレンジで独特の世界を構築するルネッサンス。そんな彼らの最大の魅力は、紅一点ヴォーカリスト、アニー・ハズラムのどこまでも美しく澄んだハイトーン・ヴォイスにある。そして、まさにイギリスらしいとしか言いようのない、寓話的でファンタジー・テイスト溢れるサウンドは、マイケル・ダンフォードのアコースティック・ギターとクラシカルなキーボードを得て、いよいよめくるめく音世界へと突入していく。

72年に一点の曇りもない透き通ったサウンドを打ち出したアルバム『プロローグ』でデビューし、近年ではプログレッシヴ・ロックというジャンルを越えて、ヒーリング・ロックとまで言われているルネッサンス。イギリスの深い森に棲む木霊のささやきにも似た繊細で儂い旋律は、次第に盛り上がりドラマティックな瞬間を迎える。そのとき彼らがいかに力強く壮大なサウンドを展開させるか……。それが彼らのイリュージョンなのである。

四人囃子

(よにんばやし)



1973年結成。四人囃子は、日本ロックの黎明期において活躍した1970年代を代表するプログレッシヴ・ロック・バンド。デビュー・アルバム『一触即発』はピンク・フロイド、ディーブ・パープルなどを彷彿とさせるブリティッシュ・テイスト溢れる内容で、そのクオリティの高さから、「洋楽ファンをもうならせる演奏技術と楽曲センスを持つバンド」と評され、その存在は日本のロック史において伝説となっている。2002年に第一回ロックレジェンズとしてテレビ朝日企画制作のもとで再結成ライブを行い、厚生年金会館、渋谷公会堂を即日完売させたほか、2007年にはクリエイションとともにJCBホールにて開局50周年コンサートを実施。こちらもチケットは完売となった。メンバーは森園勝敏(G)、佐久間正英(B)、岡井大二(Ds)、坂下秀実(Key)で構成される。四人囃子はその革新的なサウンドで、近年ヨーロッパ諸国でも注目され、音楽雑誌でも特集されるなど、70年代の日本のロックを代表するバンドとして海外でも高い認知度を誇っている。